



一般社団法人 日本物理学会

日本物理学会領域 2 運営会議

日本物理学会 第72回年次大会(2017年)
2017年3月18日12時15分～13時00分
大阪大学豊中キャンパス

物理学会領域2運営会議 アウトライン

- 1) 2017年4月からの新役員体制・役割分担
- 2) 学生優秀発表賞に関する報告
- 3) 若手奨励賞(第12回(2017年))受賞者報告
- 4) 2017年秋季大会 企画セッション提案
- 5) 「プラズマ宇宙物理」合同セッションの継続に関する提案
- 6) Plasma Conference 2017
- 7) 領域委員会報告、学生優秀発表賞実施要綱案
- 8) 日本学術会議より報告 藤澤彰英
- 9) AAPPS報告 菊池 満
- 10) その他

1. 2017年4月からの新役員体制

(2017.4から2018.3まで)

領域代表 政宗 貞男(京都工芸繊維大学)

領域副代表 洲鎌 英雄(核融合科学研究所)

領域前代表 上杉 喜彦(金沢大学)

(2014.10から2016.9まで領域委員、2014.10から2017.9まで役員)

役員(領域運営委員) 藤岡 慎介(大阪大学)

役員(領域運営委員) 藤田 隆明(名古屋大学)

役員(領域運営委員) 本多 充(原子力機構)

(2016.4から2018.3まで領域委員、2015.10から2018.9まで役員)

役員(領域運営委員) 後藤 基志(核融合研)

役員(領域運営委員) 高橋 和貴(東北大学)

役員(領域運営委員) 森田 太智 (九大)

(2016.10から2018.9まで領域委員、2016.10から2019.9まで役員)

役員(領域運営委員) 大島 慎介(京大)

役員(領域運営委員) 西浦 正樹(東大)

役員(領域運営委員) 蔵満 康浩 (国立中央大学(台湾))

2017年秋からの領域役員候補者

NIFSの方

白石 淳也さん （量研機構）

森 芳孝さん （光産業創成大）

2. 学生優秀発表賞に関する報告

物理学会領域2が独自に設けた賞で、物理学の発展に貢献しうる優秀な一般講演発表を行った学生(応募時に学生的身分)の方々に対して授与するもの(詳細は領域2HP(<http://www.r2.div.jps.or.jp/>)中の“学生優秀発表賞”参照)

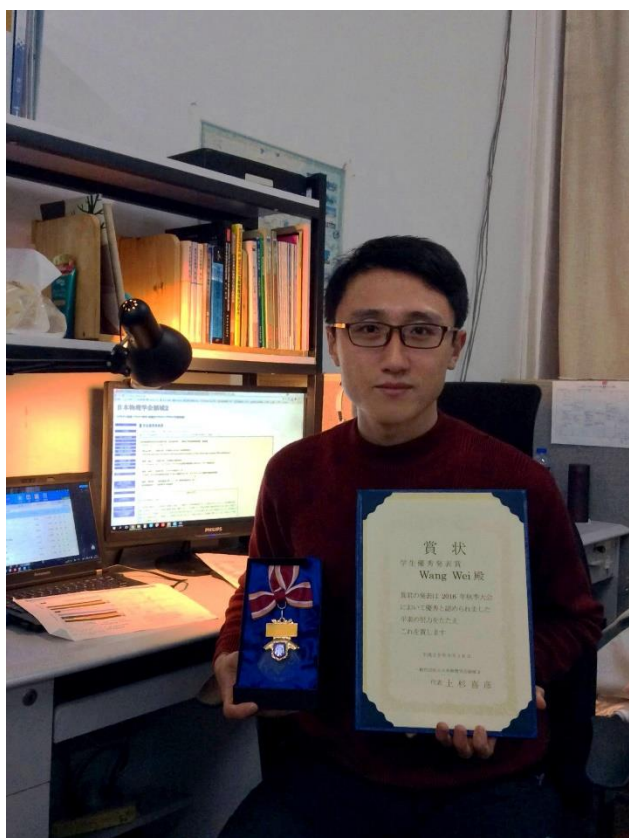
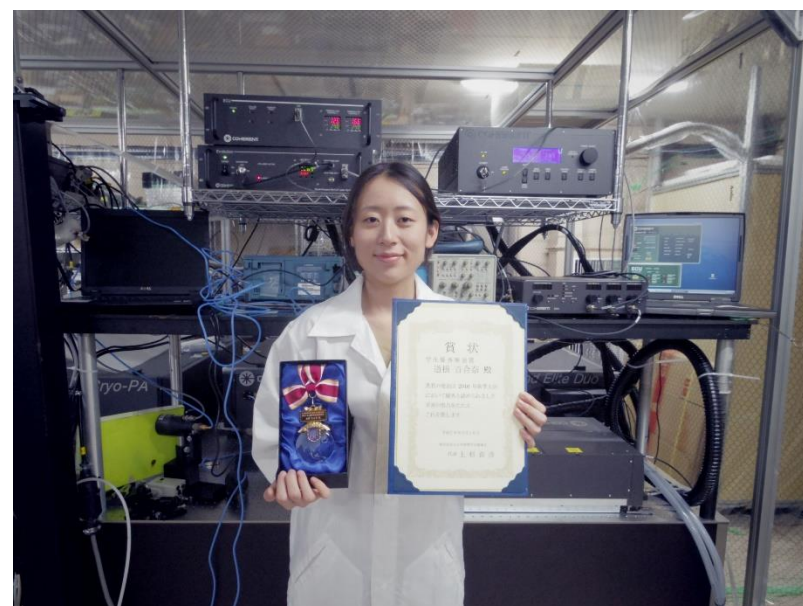
2016年9月秋季大会での受賞者

- ・Wang Wei (京都大学 大学院エネルギー科学研究科)
「The ExB staircase formation and associated transport in flux-driven gyro-kinetic ITG turbulence」
- ・亀淵 健太 (京都大学 大学院工学研究科)
「マイクロホローカソードアルゴンプラズマの空間分解診断に向けたレーザー吸収分光」
- ・隅田 脩平 (筑波大学 プラズマ研究センター)
「JT-60UにおけるDD核融合生成 ^3He に起因するイオンサイクロトロン放射の密度依存性」
- ・道根 百合奈 (電気通信大学 レーザー新世代研究センター)
「紫外線励起オゾン回折格子の高速化」

* 21名の応募があり、そのうち4名を選出
前回は19名の応募あり

学生優秀発表賞を、「物理学会が設ける賞」として2018年から実施する予定(後出)

学生優秀発表賞受賞者



3. 若手賞受賞者報告

今回は2名の応募。選考委員は6名。選考委員会委員長は齊藤輝雄(福井大学)

選考委員: 齊藤輝雄(委員長)、政宗貞男(副委員長)、飯尾俊二、福山淳、藤田隆明、渡邊智彦

(1)小林 達哉 核融合科学研究所 助教

研究題目 核融合プラズマに於けるL-H遷移の物理機構の実験研究

受賞理由: 磁気閉じ込め核融合装置において重要なL-H遷移の物理機構解明のため、独自に開発したデータ解析手法を、トカマク型プラズマ閉じ込め装置JFT-2MにおけるHIBP計測データの解析に適用し、新たな研究の展開をもたらした。特に、L-H遷移前のリミットサイクル振動現象において径電場と乱流揺動の因果関係を解析し、従来の説とは異なる機構が働いていることを見いだしたことは極めて顕著な成果である。また、多数の筆頭著者論文を公表しており将来性も期待できることから、領域2の若手奨励賞としてふさわしいと判断した。

(2)WANG, Hao 核融合科学研究所 助教

研究題目 高エネルギー粒子駆動測地的音響モードのシミュレーション研究

受賞理由: 運動論的効果を取り入れたハイブリッドMHDシミュレーションにより、磁場閉じ込め核融合装置で観測された高周波 EGAMの生成機構を示すとともにその基本特性を明らかにしたことは重要な成果である。例えば、高速イオンによるEGAMの励起過程の解明、ならびに、位相空間上での非線形波動粒子相互作用解析による周波数変動現象(chirping)の再現とその物理機構同定に寄与した点は注目に値する。現時点で学術論文数は必ずしも多くないが、最近のIAEA会議において3回連続して論文が採択されていることも評価でき、今後の発展が期待できることから、領域2の若手奨励賞としてふさわしいと判断した。

受賞記念の招待講演: 2017年3月20日(月) 20aC34 会場 11:15-12:25

4. 2017年秋季大会企画セッション提案

セッション名: 非平衡極限プラズマ

提案者: 藤澤彰英(九大)

趣旨:

基礎プラズマ、磁場閉じ込めプラズマ、レーザープラズマ、プロセスプラズマなど広異分野を持つ領域2の横断的に議論を行えるセッションが必要と考えて、これまで3年以上にわたり「非平衡極限プラズマ」のセッションが企画され成功裏に続けられてきた。科研費の分類もプラズマ学として一つにまとめられ、プラズマ分野全体に渡る横断的なセッションの必要性は高まっている。ここでは「非平衡極限プラズマ」の継続をお願いしたい。

5. 「プラズマ宇宙物理」合同セッションの継続に関する提案 (5月領域委員会)

1. 今後の合同セッションの計画

領域2では、地球電磁気・地球惑星圏学会及び日本天文学会の合同セッション世話人らと協議し、合同セッション今後3回を以下の通り継続実施することを提案する。

第10回 日本物理学会第73回年次大会(2018年3月、東京理科大)

第11回 地球惑星科学連合2020年大会(2020年5月、幕張メッセ)

第12回 日本天文学会2022年秋季年会(2022年9月、未定)

* 第11回、第12回の開催大会は変更の可能性あり

2. 第10回合同セッションにおける共催学会員の取り扱いについて

領域2が幹事を務める次回(第10回)合同セッションでは、共催学会からの参加を促すため、地球電磁気・地球惑星圏学会、日本天文学会から参加者の登録料について、**物理学会会員と同等の資格で参加できるものとする**ことを希望する。なお、講演登録者の所属学会のチェックは、プログラム編成に係る世話人が実施する予定である。

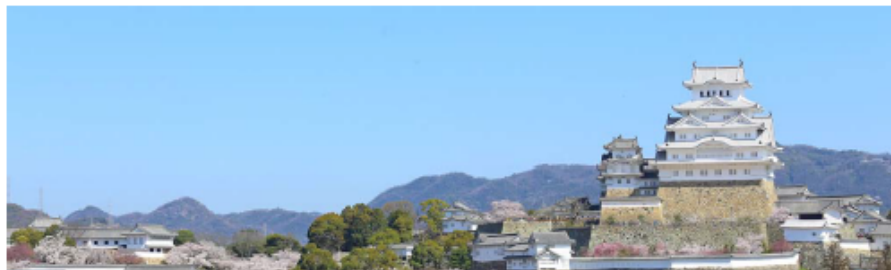
3. 第10回合同セッションの世話人

日本物理学会: 政宗 貞男(領域2代表、京都工繊大)、蔵満 康浩(世話人代表、台湾國立中央大學)、森田 太智(九大)、藤岡 慎介(大阪大)

地球電磁気・地球惑星圏学会: 松本洋介(世話人代表、千葉大)、松清修一(九州大学)、杉山徹(JAMSTEC)、中村匡(福井県立大学)

日本天文学会: 鈴木建(世話人代表、東大)、固武慶(福岡大学)、新田伸也(筑波技術大学)、横山央明(東京大学)、犬塚修一郎(名古屋大学)、松元亮治(千葉大学)

6. Plasma Conference 2017 (PLASMA2017)



PLASMA2017の概要

日時：2017年11月21日(火)～24日(金)

会場：姫路商工会議所（姫路市下寺町43）

会議の名称：Plasma Conference 2017 (略称: PLASMA2017)

/応用物理学会第35回プラズマプロセッシング研究会

/プラズマ・核融合学会第34回年会

/日本物理学会（領域2）2017年秋季大会

/第30回プラズマ材料科学シンポジウム

主催：

- ・公益社団法人 応用物理学会 プラズマエレクトロニクス分科会(幹事学会) [\[LINK\]](#)
- ・一般社団法人 プラズマ・核融合学会 [\[LINK\]](#)
- ・一般社団法人 日本物理学会 [\[LINK\]](#)・領域2
- ・日本学術振興会 プラズマ材料科学第153委員会 [\[LINK\]](#)

各種委員会：

[こちらから](#)

開催にあたって

Plasma Conference 2017 (PLASMA2017) を2017年11月21-24日、姫路市の姫路商工会議所にて開催するにあたり、ご案内させていただきます。

国内のプラズマ関連学会の共同開催により日本のプラズマコミュニティを発展させるこ

●基調講演 4件内諾済
MCF、プラズマ基礎、プラズマ応用、企業枠

●招待講演 25件程度

・招待講演はプログラム委員からのみ推薦

・プログラム委員は招待講演者にならない

－推薦締切:4月10日

－第2回プログラム委員会(5月中旬)で招待講演者決定

●シンポジウム 全体で11件程度

(プログラム委員提案分) 4件

・採用予定件数:各学会から1, 合計4

－各学会からの提案を副委員長が取り纏て推薦

－推薦締切:5月8日

－プログラム委員提案分は第2回プログラム委員会で審議するが原則採用

(一般公募) 7件

・採用予定件数:プラ核2, 物理1, 応物1, 融合3

－一般公募締切:5月8日

－第2回プログラム委員会で予定数に従い決定。

●スケジュールが確定次第、PlasmaMailでお知らせしますので、積極的に参加して下さるようお願いいたします。

7. 領域委員会報告、学生優秀発表賞実施要綱案

学生発表賞について(議事録より)

3. 学生発表賞について

- ・ 現状では、領域の主体性に準じた領域ごとの授賞を行っているが、物理学会理事会が把握していないものについても、「日本物理学会」の名前がついている賞がある。また、領域の固定化が強化してしまう、賞の対象が不統一、などの懸念点もあるため、以下の提案、意見交換がなされた。
 - 名称は「日本物理学会学生優秀発表賞」に統一し、受賞者は物理学会会員のうち大学院生会員または学生会員にかぎる。設置しない領域があってもよい。
 - 受賞人数は「常識の範囲内」とし、各領域で自主的に進める点では現行と変わらないが、授賞にあたっては理事会への提出・承認が必要になる。
 - スケジュールを考慮すると、2018年の年次大会からの実施が現実的
 - 規程は領域ごとに色を出すという趣旨のもと、理事会にて各領域で定める実施要綱を承認する必要がある。2017年3月の年次大会インフォーマルミーティングまでに、雛形の実施要綱を各領域に配布する予定となった。

日本学会の報告 (マスタープラン2017について)

第23期学術の大型施設計画・大規模研究計画 に関するマスタープランの公開 2017年2月

学術の大型研究計画検討分科会

URL: <http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/kohyo-23-t241-1.html>

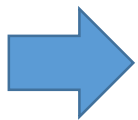
重点大型研究計画(28件) 65件のヒアリングの結果(2016年9月)

非平衡極限プラズマ全国 共同連携ネットワーク研究 計画 (物理学)

最先端プラズマ科学グローバルイノベーション拠点の 形成(総合工学)

学術大型研究計画(区分I163件、区分II16件)

パワーレーザーによる高エネルギー密度科学グランド アライアンス研究計画
(物理学)



文部科学省

学術研究の大型プロジェクトの推進に関する基本構想 ロードマップ2017へ

研究環境基盤部会 学術研究の大型プロジェクトに関する作業部会

9. AAPPS報告

AAPPS-DPP活動報告(物理学会年会)

菊池満(chair)



APPC-13: Dec. 4-8, Brisbane, Australia, S. Chandrasekhar Prize ceremony



AAPPS-DPP 若手賞



東北大: 高橋和貴さん (S. Ichimaru, P. Kaw, D. Melrose)

名大: 井上 剛志さん (D. Melrose)

清華大学: Wei Lu (P. Kaw)

Vikram Sarabhai Space Centre: MB Dhanya (S. Ichimaru)



Division chair meeting, Dec. 5, 2016, Brisbane



(left to right): Sang Pyo Kim, Tohru Motobayashi, Mitsuru Kikuchi, Seunghwan Kim, Gui-Lu Long, Kazuhiro Tanaka, Hyoung Joon Choi, Woo-Sung Jung

The importance of division activities for AAPPS was unanimously agreed upon and division activities will become an important core of AAPPS. To ensure such activities, the importance of financial support to the divisions by APCTP is recognized.

AAPPS-DPP2017について



時期:2017年9月18-23日

場所:成都(中国) [CAで成田往復4万円から]

国際組織委員会:議長:陳留(Liu Chen)教授(Maxwell, Alfvén賞受賞者)

共同議長:菊池 満(領域2元代表、AAPPS-DPP Chair)

現地実行委員会:段(Xuru Duan)教授 西南物理研究院核融合科学センター長

招待講演者数:基調講演40、招待講演約250名

一般講演申し込み:4月30日まで

若手賞申し込み :4月30日まで

チャンドラセッカル一賞推薦:5月31日まで

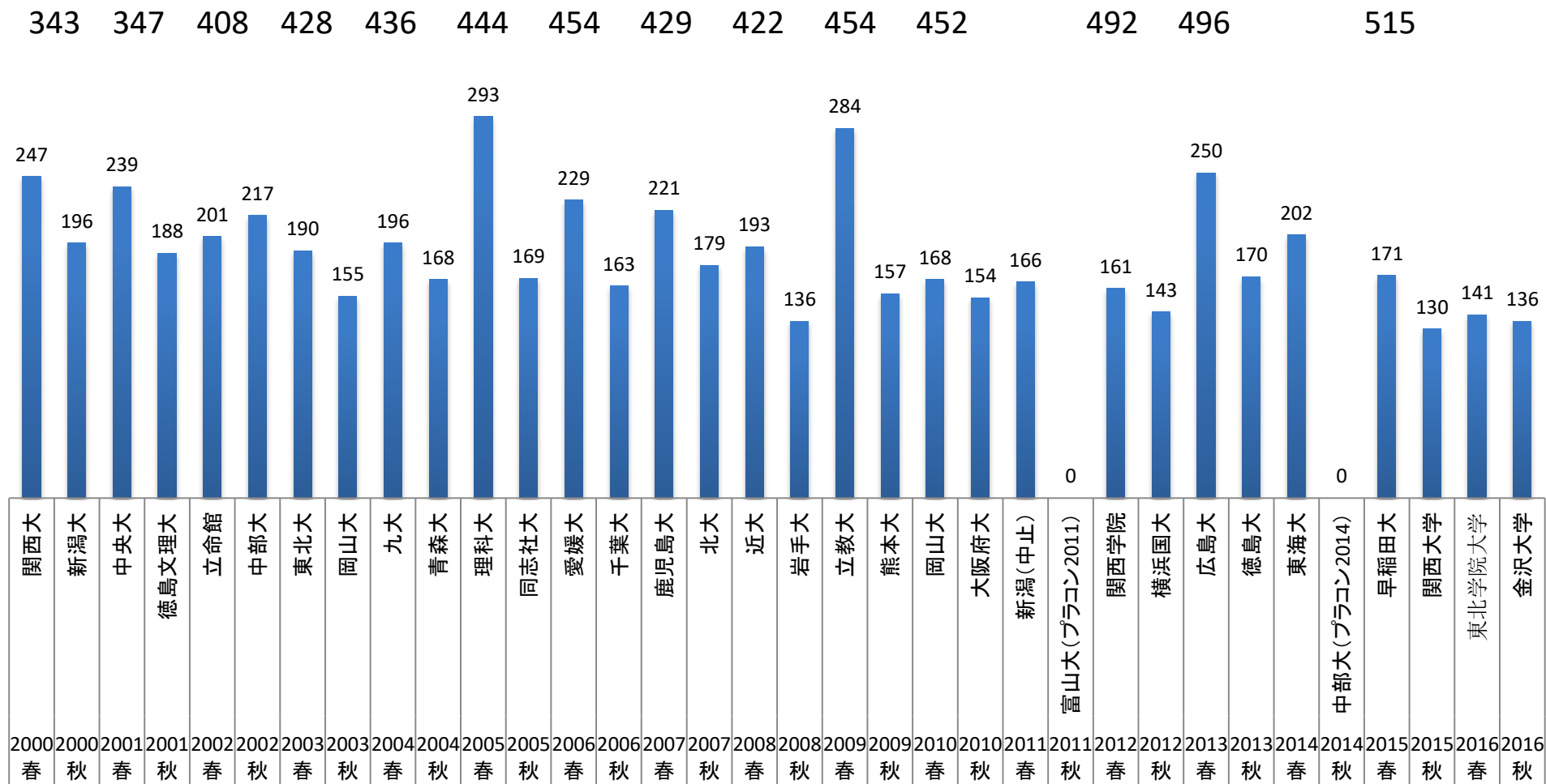
Homepage : <http://dpp2017.swip.ac.cn>

10. その他

10-1. 領域2講演数の推移

本分科会 187件

プラ核年会発表件数



10-2. メーリングリスト加入

メール題目に「PlasmaML新規登録希望」を、メール本文に自身の物理学会会員番号、氏名を明記して、PlasmaML-owner@nifs.ac.jp に送ってください

最近メールが来なくなった人も連絡ください

10-3. 領域2懇親会

日時: 2017年3月18日(土) 18:00-20:30

場所: 憩家 楽, 〒563-0032 大阪府池田市石橋2-2-3

<https://tabelog.com/osaka/A2706/A270603/27012076/>